



津具村からの手紙

姉妹都市・田原市のみなさんお元気ですか？このコーナーでは、津具村のさまざまな話題をお届けします。

今月は 津具村の自然は日本一です！

私の家の周りは木ばかりです。日中、車もバイクもあまり通らないので、排気ガスが少ないです。排気ガスが出ないとうれしいことがあります。それは、自然に生えているつくしやよもぎ、山菜などを楽しみなが採れることです。夏の夜、外を見ると家の周りにホタルが淡い光を発しながらゆらゆらと飛んでいます。川には魚や昆虫もたくさんいて、川浴いを通るのがとても楽しいです。そして、夏に一番楽しいのが、さわやかな風を肌で感じながら、外で焼肉をしたりおいしいスイカを食べたりすることです。田原市の皆さんがこの手紙を見るころは、村内が雪化粧している時期です。でも、タンポポが咲き、つきの生える春は間近です。田原にない季節感や自然を、私の好きな津具村で感じて欲しいです。津具小学校6年 村松佑里菜

● お問い合わせ先

津具村役場 総務課
☎(0536)83局2301

長野県 宮田村へ

おいでなんしょ

今回は、宮田村の農業をご紹介します。

「おいでなんしょ」は、田原市の友好都市である長野県宮田村周辺の方言で「おいでくださいませ」という意味です。

カーネーション栽培

花言葉は「情熱」「あなたを熱愛します」

宮田村では、中央アルプスから流れる豊富な水を利用した稲作が盛んですが、近年は減反政策のため稲作に代わりりんご、花き、大豆、きのこ類の生産が伸びてきています。その中でも、施設園芸として盛んなカーネーション栽培についてご紹介します。



宮田村のカーネーションは4～10月に出荷されます

長野県の中でも宮田村のある南信地区は、カーネーション栽培に適した土地です。国内では北海道や愛知県が競争相手で、田原市も良きライバルですが、気候条件の違いで出荷時期の間を縫って生産ができます。

一方、恵まれた環境にあるといっても、自然が相手の商売です。平成10年の大雪の時には、ハウスが倒壊するなどの被害が出ました。



花が咲くまで手が欠かせません (大田切地区・田中さん)

カーネーションの栽培は手がかかります。毎日世話をしても、花が咲くまでに半年かかります。また、品種も消費者や市場のニーズに合わせて増えていて、品種ごとに個性があるので農家も栽培技術の向上に努めなければなりません。

そんな手間暇かけて栽培し、花と接した時間と思いの分だけ、カーネーションは良い花びらを咲かせてくれます。

宮田村役場産業課 ☎(0265)85局5864